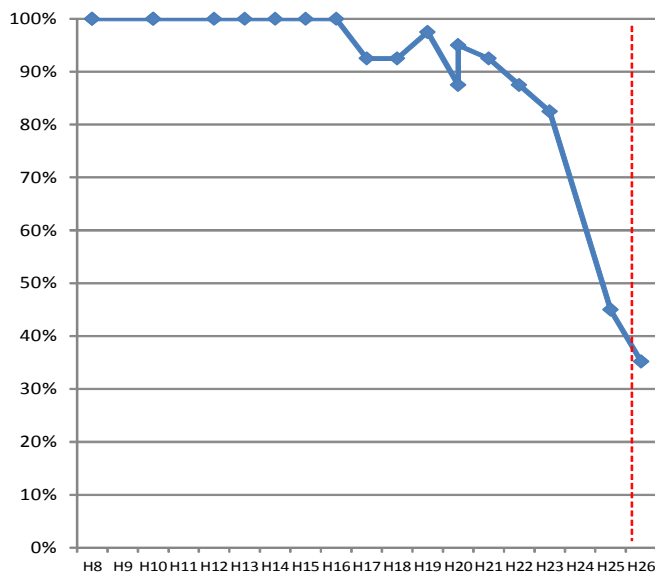


樹種名	オニグルミ	
科 目	クルミ科	
学 名	<i>Juglans mandshurica</i> var. <i>sachalinensis</i>	
分 布	オニグルミは落葉高木で、九州から北海道にかけて広く分布し、国外では樺太に分布する。 主に山間の川沿いなどでよく見られる。	
樹木特性	陽樹であり、山野の川沿いの斜面にふつうに見られる。増水時には冠水するような岩の多い川岸では、鈍群落をつくることがある。	
用 途	狂いが少なく、割れ目ができないので家具・指物材に用いられる。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	105 本／ 0.04ha (2,500 本／ ha)	
特 徴	【樹 形】 落葉高木であり樹高は 30m 程度になる。 大型の奇数羽状複葉で、特に初夏の開花時期には垂れ下がった雄花序と共によく目立つ。 種子は食用になるが、広く市販されるテウチグルミやシナノグルミに比較して種子がやや小さく、殻が厚めで非常に固いので、仁を綺麗に取り出すのは容易ではない。その代わり味は濃厚である。リスやネズミの食料としても重要である。花期は 5 月から 6 月ごろ。風媒花で雌雄同株である。材は弾力性があり狂いが少ないので敷居材などに利用されてきた。明治期以降銃床としての需要が高まり、国有林造林も行われた。果実は栄養価が高く菓子原料として流通している。土地に対する要求度は最も高い部類にはいる。河川・沢沿いなどの肥沃な土地では成長はきわめて旺盛で他雑木を圧制して成長する。	
試験地での様子	   ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害により枯死が発生した。加えて、10 年目から環境が要因と思われる枯死が発生し、成長の旺盛だった個体が枯死するという状況となった。	
被 害	植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数：2 本)	

オニグルミ 現存率



【現存率】

植栽後 8 年を経過した時点でコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害により枯死が発生している。また、平成 23 年から平成 25 年にかけて枯死が増加したが、原因は特定できていない。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 35.2%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

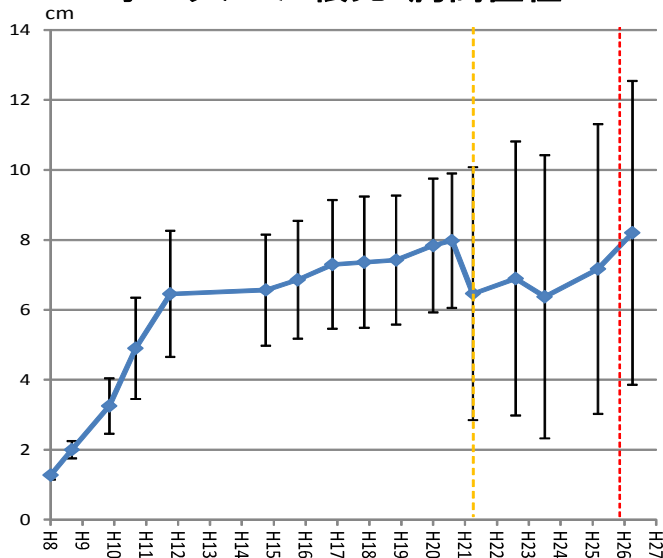
大径木の枯死により、平成 18 年度以降の胸高直径の値が低下した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 8.20 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

オニグルミ 根元・胸高直径



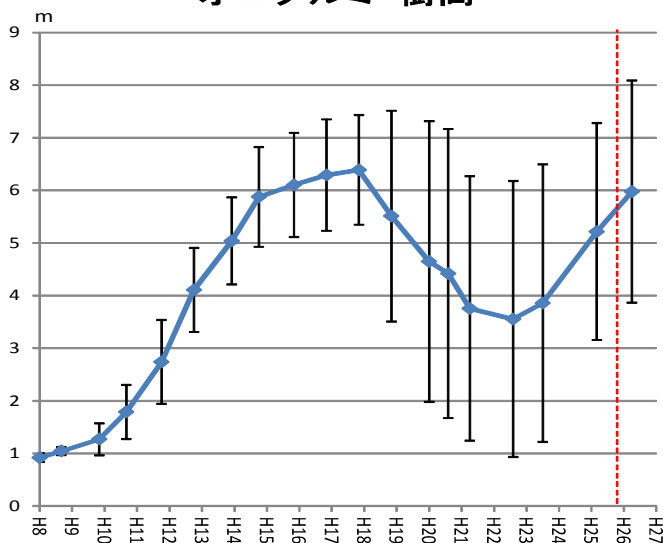
【樹 高】

大径木の枯死により、平成 18 年度以降の樹高の値が低下した。平成 23 年度以降については順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 5.98mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

オニグルミ 樹高



《プチ情報》

一般に野生のクルミのこと全般をオニグルミということもある。

日本においてクルミ属で自生するものには、他にヒメグルミがある。